



れんげそう

令和6年2月29日
福生第五小学校
学校通信第559号

一步

校長 泉田 巧人

草木が芽吹く弥生の季節となり、校庭にある梅の花も真っ白な可愛い花を咲かせています。

2月17日(土)の学習発表会には、大勢の方々に御参観をいただきありがとうございました。子どもたちは、今年度行ってきた学習の成果の一場面をまとめ、元気よく発表いたしました。どの学年も工夫を凝らし、相手に伝わるように表現するため、一生懸命に練習を行ってきました。当日も、練習の成果を発揮して、とてもよい発表ができました。子どもたちからは笑顔で、「緊張して嫌だったけれど、やってみるととても楽しかった。」などと、達成感にあふれる言葉が聞かれました。行事は、机上の学習だけでは得られない様々なことを学習します。体験的な活動を通して、お互いが良さを認め合い協力し合って、よりよい学校生活を築く集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養っていきます。一つ一つの行事を重ねるたびに、子どもたちは一步一步成長しています。子どもたちの一年の成長をたくさん褒めていただくと幸いです。

さて、世界の音楽界に多大なる貢献をされた、世界的指揮者の小沢征爾氏が2月6日に逝去されました。普段クラシックを聴かない私ですが、1998年に長野県で行われた第18回オリンピック冬季競技大会の開会式で、五大大陸を結んで小澤氏がベートーベンの交響曲9番「歓喜の歌」の指揮者をされたのを観て感動を覚えたことが今でも心に残っています。その小澤氏の記事を目にしました。小澤氏が世界に羽ばたいたきっかけは、1959年2月に多くの人の支援もあり、23歳の時にスクーターとギターをもって単身フランスに渡ったところから始まります。そして、その年のブザンソン国際指揮者コンクールに挑み見事優勝し、その後も様々なコンクールで賞を受けてきました。また、多くの有名な指揮者に師事を受けるなどしてきたそうです。日本に戻り、1962年6月からNHK交響楽団の指揮者となりましたが、様々な理由からNHK交響楽団からボイコットを受けるなどし、決して順風満帆ではなかったようです。しかしそのことが結果的に、小澤氏が世界に目を向け、世界で活躍するきっかけになったともいわれています。活躍の舞台を海外に移し、多くの功績を残されてきました。小澤氏の成功は、どの様な状況においても前に進む行動力と努力で一つ一つのきっかけをうまくつかんできたのだと思います。また、これらの成功は一人でなし得たものではなく、様々な人の支援があり、その支援を最大限に生かしてきたのではないのでしょうか。「大変だ」「めんどくさい」等と思い、現状にとどまっていたら、成功は遠い存在でしょう。まず一步踏み出すことから始まり道が開けてきます。進学や進級に当たり目標に向かい自分を信じて挑戦と努力をし、一步一步確実に前に進んでほしいと思います。子どもたちの目標の達成に向けて、教員一同は惜しみなく指導・支援を行っていきます。

残り一か月も教育活動に御理解と御協力をどうぞお願いいたします。そして、一年間ありがとうございました。



職員玄関前ひな人形